

高梁川流域キッズ

たかはしがわりゆういき

高梁川流域ゆかりの

いじん けんじん とくしゅう

偉人・賢人特集



かつやく とし
活躍した年:

1902~1981年



かつやく ぶんや
活躍した分野:

しょうせつか
小説家



ゆかりのある場所:

よこみぞせいしそかいたく
・横溝正史疎開宅
まび れきしかん
・真備ふるさと歴史館



よこみぞ せいし
横溝 正史

新高総早
見梁社島
市市市町

倉敷市

矢井浅里笠
掛原口庄岡
町市市町市



よこみぞせいし めいじ ねん こうべし う
横溝正史は、明治35（1902）年、神戸市に生まれました。
ちゅうがくせいじだい たんてい すいり しょうせつ せいし たいちょう ねん おおさか
中学生時代から探偵（推理）小説マニアとなった正史は、大正10（1921）年に大阪
やくがくせんもんがっこう いま おおさかだいがくやくがくぶ にゅうがく とし ざっし しんせいねん けんしょうしょう
薬学専門学校（今の大阪大学薬学部）に入学しました。この年に、雑誌『新青年』の懸賞小
せつ おそ エイプリル・フル おうぼ いっとう にゅうせん
説に「恐ろしき四月馬鹿」を応募し、一等に入選しました。
おおさかやくがくせんもんがっこうそつぎょうご くすりや はたら たんていしょうせつ か のち めいゆう
大阪薬学専門学校卒業後は薬屋で働きながら探偵小説を書いていたが、後に盟友とな
えどがわらんぼ さいのう みいだ でんぼういっぽん まね しょうわが ねん じょうきょう
る江戸川乱歩に才能を見出され、電報一本で招かれました。昭和元（1926）年に上京し、
しゅうばんしゃはくぶんかん しんせいねん へんしゅう あ しょうわ ねん しょうわ
出版社「博文館」で『新青年』の編集に当たりました。昭和8（1933）年から昭和14（1
ねん ながのけんりょうようせいかつちゅう さまざま さくひん しっぴつ せんじちゅう せいふ たん
939）年までの長野県療養生活中にも様々な作品を執筆しましたが、戦時中は政府から探
ていしょうせつ はっぴょう せいげん とりものちよう はっぴょう
偵小説の発表を制限されたため捕物帳を発表しました。
しょうわ ねん とうきょう そうじゃ いま くらしきしまびちよう そかい こうしゅう のが
昭和20（1945）年に、東京から総社へ、さらに今の倉敷市真備町へ疎開（空襲を逃
ちほう
れ地方に行くこと）しました。
とうしょ はたけ か な のうさぎょう お じもとじゅうみん こうりゅう なか ほんかくてき
当初は、畑を借りて慣れない農作業に追われましたが、地元住民との交流の中で本格的な
すいりしょうせつしっぴつ おも しゅうせんちよくご おに しょうわ
推理小説執筆への思いをたぎらせ、終戦直後から「トリックの鬼」となりました。昭和21（1
ねん ざっし ほうせき ほんじんさつじんじけん れんさい かいし せんごはつ
946）年から、雑誌『宝石』に「本陣殺人事件」の連載を開始しましたが、これが戦後初
ほんかくすいりしょうせつ めいたんてい ぎんだいちこうすけ はつとうじょう さくひん ぎんだいちこうすけ かつやく
の本格推理小説であり、名探偵・金田一耕助が初登場した作品です。金田一耕助が活躍する
しょうせつ ちょうたん さくひん おかやま ぶたい ごくもんと
小説は、長短あわせて77作品ありますが、そのうち岡山が舞台となっているものは『獄門島』
や はかむら あくま てまりうた さくひん めいさく い
『八つ墓村』『悪魔の手毬歌』など13作品にのぼり、どれも名作と言われています。
せいし せんご にほん ふっかつ せんどうやく は にほん だいひょう
正史は、戦後の日本ミステリー復活の先導役を果たすこととなり、日本を代表するミステ
さつか いま おお した あい
リ作家として今も多くのファンに親しまれ愛されています。